



焚ファイヤー

梵珠少年自然の家

1 活動のねらい

- ・ 焚き火のゆらめく炎を見つめ、1日の出来事を振り返ったり友達と静かに語り合ったりすることで互いの親睦を深めることができます。
 - ・ 着火から消火までの火の管理を自分たちで行うことで、焚き火の魅力や楽しさを実感できます。
- 【教科への対応】 小学校：学級活動など 中学校：学級活動など
- 【組合せ可能な活動プログラム】 ぐるぐる火起こしなど

2 活動の概要

自分たちで薪組みと着火を行い焚き火（英語で Bonfire）をします。自然の中で火を囲みながら、1日の活動をふりかえったり、仲間と語り合ったりすることで親睦を深めます。簡単な儀式や歌、スタンツ等を取り入れながら団体の実情に応じて様々にアレンジを加えることができます。

- (1) 人数 80人以内
- (2) 対象 小学校5年生～中学生・高校生
- (3) 期間 4月下旬～10月中旬
- (4) 時間 1.5時間
- (5) 場所 つどいの広場、営火場
- (6) 経費 400円／薪1束 （※ 3～4班で1束程度使用）
- (7) 指導 実施方法等について、自然の家職員が説明（直接または間接指導）を行う。



＜焚ファイヤーの様子＞

3 準備物

団 体	救急薬品、スタンツやゲームに使用するもの等
個 人	軍手、夜の野外活動にふさわしい服装（必要に応じて、虫除けスプレー等）
自然の家	焚き火台、薪、着火剤、火ばさみ、メタルマッチ、ライター、子供用折りたたみイス、ヘッドライト、ミニトーチ作成用具一式（梅枝、中古ろうそく、カセットコンロ等） 追加用雑薪（無料）、バケツ水

4 引率者の役割分担

役割名	内 容
代表責任者	1名。活動全体の総括、指揮、連絡にあたる。
用具担当者	1～2名。自然の家から貸し出す用具類の管理を行う。
活動支援者	数名。子どもたちの活動を支援し、安全と事故防止に努め、緊急時に対応する。

※実施上の役割（例）

役割名	内 容
焚き火マイスター	・ 団体を代表する人で「焚き火の楽しみ方解説」と「着火デモンストレーション」を担当する。
ファイヤーキーパー（数名）	・ 各班の焚き火の安全管理をする。 ・ 消火確認と燃えかすの片づけを行う。



＜焼マシュマロの様子＞

5 活動の流れ（例）

	内 容
説明・準備	団体の指導者が、児童・生徒等に対して、プログラムの流れや留意点の説明、安全指導等を行う。 ○焚き火台の組み立て - 必ず、焚き火台の下に「焚き火シート」を敷く。 - 緊急用の水バケツも用意する。 ※ 折りたたみイスやベンチを配置し場作りをする。 ○薪組み - 空気の流れを考え、大小の薪を合わせて20本程度組む。 - 風上側に着火剤のおがくずを入れる。 ※ 小枝など、自分たちで拾ってきた材料を使用してもよい。 ○第3部で使用するミニトーチの準備。（任意とします。） ■ [ミニトーチ] - 剪定ばさみで梅枝を50cm位に切る。 - 先端をかなづちで5～6回たたき細かく割る。 - 枝先に湯煎したロウを付着させる。 ※ロウの湯煎と梅枝への付着は大人が行う。 ○メタルマッチの使い方を班毎に練習する。
活動	《第1部》誕生の火 - 焚き火マイスターによる、焚き火の楽しみ方のお話等。 - メタルマッチでおがくずにうまく火花を飛ばして着火する。 《第2部》成長の火 - 大きく成長していく火を囲みながら、1日を振り返ったり語り合ったりする。 [焚き火中の活動例] ○ 1日をふりかえって感想発表をする。 ○ 詩の朗読や読み聞かせを静かに聞く。 ○ 班毎に簡単なゲームやクイズを楽しむ。 ※ 活動係は、薪をたし、火力をキープする。 《第3部》玄冬の火 - 炎は小さくなくても、中心部で力強く熱を放つ赤々とした熾火（おきび）を静かに見つめ、以下のような活動を行う。 ■ [ミニトーチ] - 班毎にトーチサーブスを行い、各自手に持った炎を見つめる。 ※ 班長が焚き火台からトーチに火を移し、次々にリレー形式で分火する。 ※ トーチが消火したら、枝を焚き火台にくべて終了する。
終了後	6 後始末 - やけどに注意しながら、熾火を所定のドラム缶（つどいの広場）、またはファイヤーサークル（営火場）へ捨てる。 - 焚き火台が冷めてから解体し、他の用具も合わせて返却する。 - 十分に水をかけ、消火を確認し職員の点検を受ける。 ※ 翌朝、おき火は燃やせるゴミとして処理し、ゴミ集積庫にだす。

6 実施上の留意点

- 準備及び後始末は、自然の家職員の指示によって利用団体が行う。
- 火を使う活動では、化学繊維やナイロン製品を着用している場合、火の粉により穴が開く可能性があるため、着衣を検討する必要がある。
- 貸し出し用折りたたみイスは子供用のため耐荷重が60kgまでである。

7 安全に実施するためのポイント

- ベンチやおりたたみイスの配置や薪をたす場合には、風向きに注意する。
- やけど防止用のバケツ水を用意する。